

○幹線道路

- ・一般的に、幹線道路沿道では人通りが多いことから、代表的な線状の視点場としての役割を担うとともに、接道する建築物の配置に指向性を生み、ファサードが連続する、広告物が敷地際等に並ぶ、街路樹が連続するなど、列状にまとまりのある景観が形成されています。
- ・本市においては、特に都心部の幹線道路沿道において、比較的高層の建築物が連続し、整ったまちなみが形成されており、景観上の骨格となっています。一方、一般市街地では、幹線道路沿道においても低層の建築物が多く、その景観に連続感や統一感は感じられません。



御堂筋



なにわ筋

③拠点的な空間要素

○みどりの拠点

- ・大川、夕陽丘、大阪城公園等の風致地区では、豊かな樹木や自然環境が保全されており、建物と緑が調和した特徴的な境界景観を形成しています。また、住吉大社周辺や帝塚山周辺では、緑と調和した住宅地が形成されています。
- ・中之島公園、靱公園、大阪城公園などの都市公園は、市街地が連担する本市において、うるおいのあるオープンスペースを提供するとともに、視点場となり得る貴重な空間です。
- ・舞洲西部の臨港緑地には、特に豊かな緑が見られ、ゆとりある空間を形成しています。
- ・都市公園や臨港緑地などは拠点的なみどりとして、周囲の景観にゆとりとうるおいを与えています。



夕陽丘



大阪城公園



中之島公園

○にぎわいの拠点

- ・大規模な小売店舗は大阪駅周辺、難波駅周辺、天王寺・大阪阿部野橋駅周辺に多く見られ、商店街については、駅等の周辺に多く分布しています。
- ・市内に点在する観光地のうち、海遊館などは、集客拠点として周囲へにぎわいを波及させることで、地区一体で観光地としての雰囲気を感じられます。
- ・道頓堀、新世界などは、観光地と繁華街の両方の側面が見られ、その他、南堀江、中崎町など界限性のある面白いまちなみも見られます。
- ・主な観光地、繁華街となっている地区や商業集積のある地区では、多くの人々でにぎわう界限景観が形成されています。



グランフロント大阪



とんぼりリバーウォーク



海遊館

○都市開発

- ・大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域、大阪ビジネスパーク駅周辺・天満駅周辺地域、難波・湊町地域、阿倍野地域、大阪コスモスクエア駅周辺地域が都市再生緊急整備地域に指定されており、中でも大阪駅周辺、中之島西部、御堂筋周辺、大阪コスモスクエア駅周辺地域は特定都市再生緊急整備地域となっており、機能の集積等が図られています。
- ・今後、まとまった規模の都市開発が進む地区では、拠点的な市街地が一体的に整備されるため、計画的な景観誘導を図る必要があります。



大阪駅周辺



大阪ビジネスパーク

○主要鉄道駅

- ・市内でも特に乗降客数が多い主要鉄道駅は、交通の結節点であるとともに、多数の市民や来街者が行き来する、にぎわいの拠点となっています。
- ・また、その利便性から周囲の土地は、高度化が進んでいます。
- ・主要鉄道駅及びその周辺は、都市の玄関口であり多くの人の目に触れることから、計画的な景観誘導の必要性が高いエリアです。



大阪駅



難波駅

5) 活動・営みの要素

○四季折々の風物詩

- ・伝統的な祭事は主要な社寺等により執り行われており、これらの地区では、一時的なにぎわいを生むだけでなく、景観に意味性を付加しています。
- ・現代のイベントは都心部の中之島から天満橋間、御堂筋付近で多く実施されており、人通りの多い地区に、さらなるにぎわいや活気が付加されています。



天神祭



住吉祭

○まちづくりの取り組み

- ・心斎橋筋や宗右衛門町では、景観形成に係わる地域主導のまちづくりが行われ、景観協定や地区計画が定められています。
- ・平野郷、住吉大社周辺、田辺、上町台地などHOPEゾーン事業を活用した建物等の修景等により、伝統的なまちなみが残されている地域があります。
- ・船場では、観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業等により、一部の道路において道路の美装化や電線地中化が進められています。
- ・グランフロント大阪TMOや大阪ビジネスパーク協議会など、都心部を中心に地権者、テナントや居住者等による地域の価値向上を図るエリアマネジメントの活動が見られます。
- ・このように、まちづくりの取り組みのある地区では、それぞれの地域の特性に応じた地域主導の景観形成が進められています。



心斎橋筋商店街



平野郷 (HOPE ゾーン)



船場

○水辺の魅力向上

- ・都心部にロの字に流れる川（堂島川・土佐堀川、木津川、道頓堀川、東横堀川）からなる水の回廊では、年間を通じて、食、イベント、景観等を楽しむため、府民・市民・観光客でにぎわっています。また、中之島、大阪城公園、道頓堀など大阪を代表する観光スポットをクルーズ船で巡ることができるなど、「水都大阪」をめざした、ハード・ソフトの整備が進められています。
- ・その他、近年では安治川や尻無川沿川において大正リバーブリッジや中之島漁港など、新たな集客拠点ができてきています。
- ・水辺での様々な取り組みにより水都大阪を象徴する水辺景観の形成が進められています。



アクアライナー



川の駅はちけんや

○光景観の創出

【ライトアップ等の取り組み】

- ・土佐堀川、堂島川及び大川（天満橋周辺）において、橋梁や護岸、公園等の公共施設のライトアップが行われており、夜間においても水辺のにぎわい景観が形成されています。
- ・御堂筋（土佐堀通～長堀通）では、御堂筋デザインガイドラインにより夜間景観の誘導がなされており、夜間においてもメインストリートとしての風格やにぎわいの様相が見られます。
- ・三休橋筋においてガス燈が整備されるなど、民間独自の取り組みがなされており、船場地区での落ちつきのある夜間景観を演出しています。



堂島川（中之島ガーデンブリッジ）



三休橋筋のガス燈

○建築を通した新しい魅力の創造・発信

- ・船場や中之島、キタ、ミナミ等の都心部を中心に、大正時代や昭和初期に建てられたモダンな洋風建築をはじめ、1950年代半ばから1970年代初めのいわゆる高度経済成長期に建てられた建物等、各時代を代表する魅力的な建物が集積しています。
- ・そうした建物に着目した取り組みの一つとして、生きた建築ミュージアム事業を実施しており、‘生きた建築’^(※)という新しい定義に基づき、特に新たな都市魅力の創造・発信に資すると認める50件（「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」）の選定や、建物一斉特別公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪）」が行われています。
- ・行政と民間企業・大学等が連携してこうした取組を行うことで、建築を通した大阪の新しい魅力が創造・発信されています。



オーガニックビルの特別公開



生駒ビルディングの特別公開

(※) ‘生きた建築’とは、歴史や文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証として、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築のことです。